

Q JICA 専門家って どんな仕事をしているの?

自身の専門技術や知識を生かし、国際協力の最前線で活躍するJICA専門家。
日本人の代表として、支援が終わってからも引き継がれていく“技術”や“ノウハウ”を伝えている。



(上) ラオスの「貿易促進強化プロジェクト」では、貿易資料が閲覧できる図書館の開設に向けて、2人のJICA専門家がアドバイス(右手前)
(左) ベトナムの首都ハノイで実施中の「交通安全人材育成プロジェクト」で、現場を視察するJICA専門家(右)
(撮影:久野真一)

JICA国際協力人材部
国際協力人材センター課

高野 翔

PROFILE

大学・大学院で生体機能工学を専攻。2009年4月、JICAに就職。ラオス事務所での研修を経て、9月より現職。国際協力人材の登録業務などを担当。



「途上国の人々が自ら課題を解決できるよう、 技術やノウハウを伝えています」

「途上国の人々が自ら課題を解決できるよう、技術やノウハウを伝えています」

現地の人々が自ら課題を発見・解決し、日本人の専門家がいなくても対処していただけることが大切なのです。一方、こうした技術移転型の専門家の方の仕事が円滑に進むようにサポートする「マネジメント／調整型」の専門家活動もあります。このタイプの専門家の方には、プロジェクト関係者との連絡・調整、広報、経理などの活動をしていただきます。そのほかにも、調査・分析・案件の形成などを行う「企画調査員」が

A JICAの技術協力の現場で活動しているのがJICA専門家と呼ばれる方たちです。彼らは、それぞれ専門知識や技術を持ったスペシャリスト。途上国からの要請や政府間の国際約束に基づいて、政府機関、研究機関、教育機関などに派遣されています。活動分野は、教育や保健・医療、農業、環境など多岐にわたります。

多くの専門家は「技術移転型」の支援を行っています。これは、政府や関係機関の職員に、技術や知識を伝えたり、制度や組織の改善を提案したりすること。例えば、病院では医師や看護師の指導に当たるスタッフに指導法や応用技術を教え、また、ある政府機関では高官に政策立案や行政マネジメントに関するアドバイスをしたりします。

その中でJICA専門家には、単なる技術移転にとどまらず、その先を視野に入れた協力を行うことが期待されています。最終的には、現地の人々が自ら課題を発見・解決し、日本人の専門家がいなくても対処していただけることが大切なのです。

JICA事務所で活躍しています。JICA専門家のバックグラウンドは、大きく分けると、フリーランスの立場で一般募集に応募して採用されるケースと、各省庁、開発コンサルタント企業、一般企業、大学、NGOなどに所属しながら現地に派遣されるケースがあります。

JICA専門家になるには、特定分野での高い知識と経験、語学力に加え、課題解決能力、調査分析能力、コミュニケーション能力、援助関連知識・経験など幅広い力量が求められます。また、本音で語り合い、時には互いの意見をぶつけ合いながら、関係者と良い人間関係を築いていけるだけの度量と人間性も大切だと思います。

JICA専門家の仕事に関心がある方は、国際協力キャリア総合情報サイト「PARTNER」をご覧ください。「PARTNER」上での人材登録が、皆さんの国際協力分野での活躍の第一歩となることを願っています。

国際協力キャリア総合情報サイト **PARTNER**



<http://partner.jica.go.jp/>

JICA専門家募集案件を含む、国際協力人材情報はここから!

PARTNER で **検索**